



ヨーダ通信

2010年8月号
【No.20】

安井信一税理士事務所 TEL: 03-3374-5666 FAX: 03-3377-8665

■■■■ どうぞ、みなさまで、お読みください！！ ■■■■

◆ヘタレパットからの脱却◆

こんにちは！ 安井事務所の渡辺です。ヨーダ通信、記念すべき第20号をお送りいたします。

さて、ゴルフを練習していることは、以前にも書かせて頂きましたが、2～3ヶ月に1回くらいのペースでコースに出ています。ところが、3ヶ月ほど前、同僚と千葉に行ったとき、嬉しくないあだ名がついてしまいました。その名も「ヘタレパット」…。



実は、久しぶりに行った河口湖のゴルフ場では、パットがそこそこで、いっしょに行った方から、「グリーンまわり上手くなったね」と言われていました。気をよくしたものの、事務所の同僚と千葉に行ったときは、パッティングがぜんぜんうまくいきません。10m以上あるところは、5mずつ“きざむ”状態でした。ドライバーでは多少いいところもあったのですが、何度もパットできざんでいたら、「渡辺君のヘタレがうつる！」と言われ、それ以降、「ヘタレパット」という、嬉しくないあだ名がついてしまいました…。

帰りの車の中で反省し、いろいろ考えた結果、いくつか課題が見えてきました。そして、次に行ったときにはヘタレを返上すべく、練習を続けました。私の家から車でちょっと行った山深いところにあるゴルフ場には、芝のパター練習場なども併設されていますので、大量の蚊に刺されながらも、ナイターで練習を重ねました。

練習の甲斐あってか、先月、同僚といった茨城のゴルフ場では、パット数の最下位を免れ、同僚のS氏にヘタレを引き継がせてもらいました。

上達の手ごたえを感じながら、先日の全英オープン石川遼君のインタビューを思い出しました。

彼は、結果どうこうではなく「課題も見つかったし、手応えもつめたので、すごいいいものを日本に持って帰れる」と、課題が発見できたことに喜びを感じているようでした。



やはり、上達し続ける人は、課題の発見、そして、それを克服するための努力。それが繰り返せる人なのだと思います。私自身、これからも、ゴルフはもちろん、仕事も上達し続けるために、課題の発見と、それを克服するための努力を、続けていきたいと思えます。

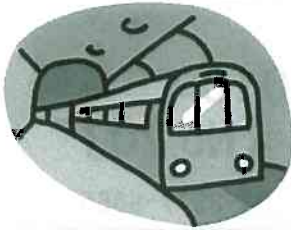
◆ピエール佐藤のおもしろフランス生活記◆

『泥棒はプロフェッショナル』

パリの生活は、大いにエンジョイしていましたが、「泥棒に注意！」です。

日本のある会社から、数人が出張してきたときの話です。あちこち出張し慣れている、いわば出張族ですね。空港からオフィスまでは、「タクシーで来てください」と再三伝えましたが、旅慣れている彼らは、わざわざ地下鉄で来たのでした。

その地下鉄というのが、実は、「危ない」ことで知れている地下鉄だったことまでは、彼らは知らなかったのです。重い書類かばんを床に置いて雑談していると、車内を歩いてきた女性が（続←）



彼らの目の前でつまずいて倒れ、コインがそこら中に散らばってしまいました。だいじょうぶですか？と女性を助け起こしながら、あーコインがここにもそこにも……と拾ってあげている間に、書類かばん全てが消えてなくなっていた、という話です。

もちろん、最初から仕組まれていたことで、ターゲットにされたのです。

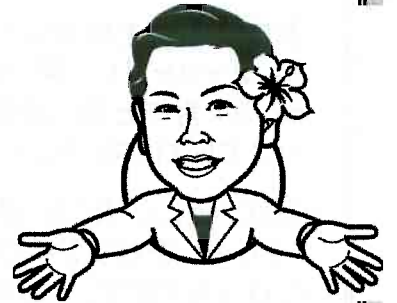
かばんの中にはパスポートが入っていて、当時は、日本大使館に泣きついても、発行に1週間ほどかかりましたから、仕事にも支障がでたにちがいません。

東京では見かけない、この手のプロフェッショナルな泥棒は、パリでは普通のことなのです。

◆夏バテと葬儀◆

みなさま、こんにちは！下藤です。呼吸困難になりそうな酷暑続きのせいか、ちょっと自分がおかしくなったのでは？という体験をしました。

実は、長年親しくしてきた友人のご主人様が亡くなりました。長く患っていたので、友人も覚悟してはいました。しかし、家族を亡くすというのは、やはり大変な経験です。亡くなった報せを受けた日の夕方にお宅を訪問し、翌々日は葬儀に参列いたしました。



葬儀は、友人宅近くのお寺の斎場でおこなわれました。酷暑の中、駅からしばらく歩いたので、着いたときには少しバテていました。隣り合った2ヶ所の斎場では、どちらも受付をしていました。「竹内家」のサインの前でしばし佇(たたず)んでみると、「こちらへどうぞ」と受付に案内されました。記帳し、香典を出しました。さらに「こちらへどうぞ」と、席まで案内されました。

長年、人生を生きていると、友人・親戚の不幸は避けて通ることができません。親しくしてくださった方、良くしてくださった方のお葬式は、様々なことが走馬燈のように思い出されてくる場でもあります。竹内さんのご主人様はとても優しい方だったので、友人はさぞ、気落ちしているだろうと心配になりました。うつむきかげんで席まで進みました。座ろうとして、ふと、まわりを見渡すと、あれ？ どうも、見知った顔がありません。

変だなあ、と思いながら着席し、数珠を出して頭を上げ、遺影を見ました……??！見知らぬ女性の顔がありました。一瞬、頭の中が真っ白に……。しかし、このまま何食わぬ顔をして座っている訳にもまいりません。おもむろに立ち上がり、再び受付へ。「あの一、すみません、わたくし、竹内家の葬儀に来たのですが……」受付の人も、「えっ?!」と驚き、オロオロ。「あの一、お香典、出してしまったのですが……」「あ、はい、わかりました。あ一、通し番号をふってしまいました、下藤様……これですね。」「すみませんでした」

どっと疲れた思いで隣の斎場受付に行きますと、話し声が聞こえてきました。「なんだか、どっちがどっちだか分かりにくかったわ」「そうなのよ。竹内家はこちらで一す、って係の人がアナウンスしてたわよ。」どうやら、間違えたのは、夏バテのせいだけではなかったようです。

連番の付いたお香典を出すのは、気が引けましたが、致し方ありませんでした。ところが翌日、事務所でこの話をしながら、気づいてしまったことがありました。香典の中身は、果たして無事だったのだろうか？ということです。

◆発行元◆

安井信一税理士事務所 〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 2-4-1 パールハイツ笹塚 501
TEL:03-3374-5666 FAX:03-3377-8665 HP:<http://www.zeirishi-expert.jp/>